

ヘキ請求ニ付キ動産又ハ不動産ニ對スル強制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲スコトヲ得

假差押ハ未タ期限ニ至ラサル請求ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第七百三十八條 假差押ハ之ヲ爲ササレハ判決ノ執行ヲ爲スコト能ハス又ハ判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ殊ニ外國ニ於テ判決ノ執行ヲ爲スニ至ル可キトキハ之ヲ爲スコトヲ得

第七百三十九條 假差押ノ命令ハ假ニ差押フ可キ物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ本案ノ管轄裁判所ヲ管轄ス

第七百四十條 假差押ノ申請ニハ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 請求ノ表示若クハ其請求カ一定ノ金額ニ係ラサル片ハ其價額

第二 假差押ノ理由アル事實ノ表示

請求及ヒ假差押ノ理由ハ之ヲ説明ス可シ

申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第七百四十一條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

請求又ハ假差押ノ理由ヲ説明セサルトキト雖モ假差押ニ因リ債務者ニ生ス可キ損害ノ爲メ債權者カ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證

ヲ立テタルトキハ裁判所ハ差押ヲ命スルコトヲ得  
又請求及ヒ假差押ノ理由ヲ説明シタルトキト雖モ裁判所ハ保證ヲ立テタルシメ假差押ヲ命スルコトヲ得保證ヲ立テタルトキハ其保證ヲ立テタルコト及ヒ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ立テタルコトヲ假差押ノ命令ニ記載スヘシ

第七百四十二條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ爲ス場合ニ於テハ終局判決ヲ以テ之ヲ爲シ其他ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

假差押ノ申請ヲ却下シ又ハ保證ヲ立テシムル裁判ハ債務者ニ之ヲ通知スルコトヲ要セス

第七百四十三條 假差押ノ命令ニハ假差押ノ執行ノ停止スルコトヲ得ル爲メ又ハ執行シタル假差押ヲ取消スコトヲ得ル爲メ債務者ヨリ供託ス

可キ金額ヲ記載ス可シ

第七百四十四條 債務者ハ假差押決定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得

此異議ニ付テハ假差押ノ取消又ハ變更ヲ申立ツル理由ヲ開示ス可シ

異議ノ申立ハ假差押ノ執行ヲ停止ス

第七百四十五條 異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ口頭辯論ノ爲メ當事者ヲ呼出ス可シ

裁判所ハ終局判決ヲ以テ假差押ノ全部若クハ一分ノ認可 變更又ハ取消ヲ言渡シ又自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立ツル可キコトノ條件ヲ附シテ之ヲ言渡スコトヲ得

**第七百四十六條** 本案ノ未タ繫屬セサルトキハ假差押裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ口頭辨論ヲ經スシテ相當ニ定ムル期間内ニ訴ヲ起ス可キコトヲ債權者ニ命ス可シ

此期間ヲ徒過シタル後ハ債務者ノ申立ニ因リ終局判決ヲ以テ假差押ヲ取消ス可ス

**第七百四十七條** 債務者ハ假執行ノ理由消滅シ其他事情ノ變更シタルトキ又ハ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ム可キ保證ヲ立テントノ提供ヲ爲シタルトキハ假差押ノ認可後ト雖モ假差押ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得此申立ニ付テハ終局判決ヲ以テ之ヲ裁判ス其裁判ハ假差押ヲ命シタル裁判所又本案カ既ニ繫屬シタルトキハ本案ノ裁判所之ヲ爲ス

**第七百四十八條** 假差押ノ執行ニ付テハ強制執行ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

**第七百四十九條** 假差押ノ命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ承繼アル場合ニ限り執行文ヲ附記スルコトヲ要ス

假差押命令ノ執行ハ命令ヲ言渡シ又ハ申立人ニ命令ヲ送達シタルヨリ十四日ノ期間ヲ徒過スルトキハ之ヲ爲スコトヲ許サス

右執行ハ債務者ニ差押命令ヲ送達スル前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得

**第七百五十條** 動産ニ對スル假差押ノ執行ハ各差押ト同一ノ原則ニ從ヒテ之ヲ爲ス

債權ノ假差押ニ付テハ其命令ヲ發シタル裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

債權ノ假差押ニ付テハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁スル命令ノミヲ爲ス可シ

假差押ノ金錢ハ之ヲ供託ス可シ其他假差押物ノ競賣及ヒ假差押有價証券ノ換價ハ一時之ヲ爲サス然レトモ假差押物ニ著シキ價額ノ減少ヲ生スル恐アルトキ又ハ其貯藏ニ付キ不相應ナル費用ヲ生スヘキトキハ執行裁判所ハ申立ニ因リ其物ヲ競賣シ賣得金ヲ供託スヘキ旨ヲ執達更ニ命スルコトヲ得

**第七百五十一條** 不動産ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ命令ヲ登記簿ニ記入スルニ因リテ之ヲ爲ス

**第七百五十二條** 假差押執行ノ爲メ強制管理ヲ爲ス場合ニ於テハ保全ス

へキ債權ニ相當スル金額ヲ取立テ之ヲ供託スヘシ

**第七百五十三條** 船舶ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ當時碇泊スル港ニ碇泊セシムルコトニ因リテ之ヲ爲ス裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲ス

**第七百五十四條** 假差押命令ニ於テ定メタル金額ヲ供託シタルトキハ執行裁判所ハ執行シタル假差押ヲ取消スヘシ

假差押ノ續行ニ付キ特別ノ費用ヲ要シ且之カ爲メ必要ナル債權者カ豫納セサルトキモ亦執行裁判所假差押ノ取消ヲ命スルコトヲ得  
右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

假差押ヲ取消ス決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得  
**第七百五十五條** 係争物ニ關スル假處分ハ現狀ノ變更ニ因リ當事者一方ノ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ之ヲ許ス

**第七百五十六條** 假處分ノ命令其他ノ手續ニ付テハ假差押ノ命令及ヒ手續ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

**第七百五十七條** 假處分ノ命令ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス

右裁判ハ急迫ナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得  
**第七百五十八條** 裁判所ハ其意見ヲ以テ申立ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ定ム

假處分ハ保管人ヲ置キ又ハ相手方ニ行爲ヲ命シ若クハ之ヲ禁シ又ハ給付ヲ命スルコトヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

假處分ヲ以テ不動産ヲ讓渡シ又ハ抵當ト爲スコトヲ禁シタルハ裁判所ハ第七百五十二條ノ規定ヲ準用シテ登記簿ニ其禁止ヲ記入セシム可シ  
**第七百五十九條** 特別ノ事情アルトキニ限り保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スコトヲ得

**第七百六十條** 假處分ハ争アル權利關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムル爲ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得但其處分ハ殊ニ繼續スル權利關係ニ付キ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル強暴ヲ防シ爲メ又ハ其他ノ理由ニ因リ之ヲ必要トスルトキニ限ル

**第七百六十一條** 急迫ナル場合ニ於テハ係争物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ハ假處分ノ當否ニ付テノ口頭辯論ノ爲メ本案ノ管轄裁判所ニ相手方ヲ呼出ス可キ申立ノ期間ヲ定メ假處分ヲ命スルコトヲ得  
此期間ヲ徒過シタル後區裁判所ハ申立ニ因リ其命シタル假處分ヲ取消

ス可シ

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第七百六十二條 本章ノ規定ニ於ケル本案ノ管轄裁判所ハ第一審裁判所トス但本案カ控訴審ニ繫屬スルトキニ限り控訴裁判所トス

第七百六十三條 急迫ナル場合ニ於テ口頭辯論ヲ要セサルモノニ限り裁判長ハ本章ノ申立ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ得

### 第七編 公示催告手續

第七百六十四條 請求又ハ權利ノ届出ヲ爲サシムル爲メノ裁判上ノ公示催告ハ其届出ヲ爲ササルトキハ失權ヲ生スル效力ヲ以テ法律ニ定メタル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

公示催告手續ハ區裁判所之ヲ管轄ス

第七百六十五條 公示催告ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スヲ得此申立ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ハ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

申立ヲ許ス可キトキハ裁判所ハ公示催告ヲ爲ス可ク其公示催告ニハ殊ニ左ノ諸件ヲ掲クヘシ

第一 申立人ノ表示

第二 請求又ハ權利ヲ公示催告期日マテニ届出ツ可キコトノ催告

第三 届出ヲ爲ササルニ因リ生ス可キ失權ノ表示

第四 公示催告期日ノ指定

第七百六十六條 公示催告ニ付テノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ掲示シ及ヒ官報又ハ公報ニ掲載シテ之ヲ爲シ其他法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ第五百七十七條第三項ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲ス

第七百六十七條 公示催告ハ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ少ナクトモ二个月ノ時間ヲ存スヲ要ス

第七百六十八條 公示催告期日ノ終リタル後ト雖モ除權判決前ニ届出ヲ爲ストキハ適當ナル時間ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七百六十九條 除權判決ハ申立ニ因リ之ヲ爲ス

右判決前ニ詳細ナル探知ヲ爲ス可キ旨ヲ命スルコトヲ得  
除權判決ノ申立ヲ却下スル決定及ヒ除權判決ニ付シタル制限又ハ留保ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第七百七十條 申立人ノ理由トシテ主張シタル權利ヲ争フコトヲ届出アリタルトキハ其事情ニ從ヒ届出テタル權利ニ付テノ裁判確定スルマテ

公示催告手續ヲ中止シ又ハ除權判決ニ於テ届出タル權利ヲ留保ス可シ  
第七百七十一條 申立人カ公示催告期日ニ出頭セサルトキハ其申立ニ因  
リ新期日ヲ定ム可シ此申立ハ公示催告期日ヨリ六個月ノ期間内ニ限リ  
之ヲ爲スコトヲ許ス

第七百七十二條 公示催告手續ヲ完結スル爲メ新期日ヲ定メタルトキハ  
其期日ノ公告ヲ爲スコトヲ要ス

第七百七十三條 裁判所ハ除權判決ノ重要ナル旨趣ヲ官報又ハ公報ニ掲  
載シテ公告ヲ爲スコトヲ得

第七百七十四條 除權判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス  
除權判決ニ對シテハ左ノ場合ニ於テ申立人ニ對スル訴ヲ以テ催告裁判  
所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第一 法律ニ於テ公示催告手續爲ラス場合ニ非サルトキ

第二 公示催告ニ付テノ催告ヲ爲サヌ又ハ法律ニ定メタル方法ヲ以  
テ催告ヲ爲ササルトキ

第三 公示催告ノ期間ヲ遵守セサルトキ

第四 判決ヲ爲ス判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル  
トキ

第五 請求又ハ權利ノ届出アリタルニ拘ハラヌ判決ニ於テ其届出ヲ  
法律ニ從ヒ願ミサルトキ

第六 第四百六十九條第一項乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴  
ヲ許ス條件ノ存スルトキ

第七百七十五條 不服申立ノ訴ハ一個月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ此  
期間ハ原告カ除權判決ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ前條第四號  
及ヒ第六號ニ掲ケタル不服申立ノ理由ノ一ニ基キ訴ヲ起シ且原告カ右  
ノ日ニ其理由ヲ知ラサル場合ニ於テハ其期間ハ不服ノ理由ノ原告ニ  
知レタル日ヲ以テ始マル  
除權判決ノ言渡ノ日ヨリ起算シテ五個年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ  
得ス

第七百七十六條 裁判所ハ第二百二十條ノ條件ノ存セサルトキト雖モ數箇  
ノ公示催告ノ併合ヲ命スルコトヲ得

第七百七十七條 盜取セラレ又ハ紛失若クハ滅失シタル手形其他商法ニ  
無効ト爲シ得ヘキコトヲ定メタル證書ノ無効宣言ノ爲ニ爲ス公示催告  
手續ニ付テハ以下數條ノ特別規定ヲ適用ス  
此規定ハ法律上公示催告手續ヲ許ス他ノ證書ニ付キ法條律中ニ特別規

定テ設ケサル限リハ之ヲ適用ス

**第七百七十八條** 無記名證券又ハ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘク且略式裏書ヲ付シタル證券ニ付テハ最終ノ所持人公示催告手續ヲ申立ツル權アリ  
此他ノ證券ニ付テハ證券ニ因リ權利ヲ主張シ得ヘキ者此申立ヲ爲ス權アリ

**第七百七十九條** 公示催告手續ハ證券ニ表示シタル履行地ノ裁判所之ヲ管轄ス若シ證券ニ其履行地ヲ表示セサルトキハ發行人カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所之ヲ管轄シ其裁判所ナキトキハ發行人カ發行ノ當時普通裁判籍ヲ有セシ地ノ裁判所之ヲ管轄ス  
證券ヲ發行スル原因タル請求ヲ登記簿ニ記入シタルトキハ其物ノ所在地ノ裁判所ノ管轄ニ專屬ス

**第七百八十條** 申立人ハ申立ノ憑據トシテ左ノ手續ヲ爲スヘシ  
第一 証券ノ謄本ヲ差出シ又ハ証券ノ重要ナル旨趣及ヒ証券ヲ十分ニ認知スルニ必要ナル諸件ヲ開示スルコト  
第二 証券ノ盜難、紛失、滅失及ヒ公示催告手續ヲ申立ツルコトヲ得ルノ理由ヲタリシコト

**第七百八十一條** 公示催告中ニ公示催告期日マテニ權利ヲ裁判所ニ届出  
テ且其証券ヲ提出スヘキ旨ヲ証券ノ所持人ニ催告スヘク又失權トシテ、証券ノ無効宣言ヲ爲スヘキ旨ヲ戒示スヘシ

**第七百八十二條** 公示催告ノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ掲示シ且官報又ハ公報ニ掲載シ及ヒ新聞紙ニ三回掲載シテ之ヲ爲ス  
公示催告裁判所ノ所在地ニ取引所アルトキハ取引所ニモ亦此公告ヲ掲示スヘシ

**第七百八十三條** 公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ少ナクトモ六個月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

**第七百八十四條** 除權判決ニ於テハ証券ヲ無効ナリト宣言スヘシ  
除權判決ノ重要ナル旨趣ハ官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ  
不服申立ノ訴ニ因リ判決ヲ以テ無効宣言ヲ取消シタルトキハ其判決ノ確定後官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

**第七百八十五條** 除權判決アリタルトキハ其申立人ハ証券ニ因リ義務ヲ負擔スル者ニ對シテ証券ニ因レル權利ヲ主張スルコトヲ得

**第八編 仲裁手續**

**第七百八十六條** 一名又數名ノ仲裁人ヲシテ争ノ判斷ヲ爲サシムル合意

ハ當事者カ係争物ニ付キ和解ヲ爲ス權利アル場合ニ限り其效力ヲ有ス  
第七百八十七條 將來ノ争ニ關スル仲裁契約ハ一定ノ權利關係及ヒ其關  
係ヨリ生スル争ニ關セサルトキハ其效力ヲ有セス  
第七百八十八條 仲裁契約ニ仲裁人ノ選定ニ關スル定ナキトキハ當事者  
ハ各一名ノ仲裁人ヲ選定ス

第七百八十九條 當事者ノ雙方カ仲裁人ヲ選定スル權利ヲ有スルルハ先  
ニ手續ヲ爲ス一方ハ書面ヲ以テ相手方ニ其選定シタル仲裁人指示シ且  
七日ノ期間内ニ同一ノ手續ヲ爲ス可キ旨ヲ催告スヘシ右期間ヲ徒過シタ  
ルルハ管轄裁判所ハ先ニ手續ヲ爲ス一方ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス  
第七百九十條 當事者ノ一方ハ相手方ニ仲裁人選定ノ通知ヲ爲シタル  
後ハ相手方ニ對シテ其選定ニ羈束セラル

第七百九十一條 仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ死亡シ又  
ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受若クハ施行ヲ拒ミタルト  
キハ其仲裁人ヲ選定シタル當事者ハ相手方ノ催告ニ因リ七日ノ期間内  
ニ他ノ仲裁人ヲ選定ス可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ其  
催告ヲ爲シタル者ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定スヘシ  
第七百九十二條 當事者ハ判事ヲ忌避スル權利アルト同一ノ理由及ヒ條

件ヲ以テ仲裁人ヲ忌避スルコトヲ得

此他仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ其責務ノ履行ヲ不當  
ニ遲延ス可トキハ亦之ヲ忌避スルコトヲ得

無能力者、豐者、啞者及ヒ公權ノ剝奪又ハ停止中ノ者ハ之ヲ忌避スル  
コトヲ得

第七百九十三條 仲裁契約ハ當事者ノ合意ヲ以テ左ノ場合ノ爲メ豫定ヲ  
爲ササリントキハ其効力ヲ失フ

第一 契約ニ於テ一定ノ人ヲ仲裁人ニ選定シ其仲裁人中ノ或ル人カ  
死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受ヲ拒ミ又  
ハ仲裁人ノ取結ヒタル契約ヲ解キ又ハ其責務ノ履行ヲ不當ニ遲  
延シタルトキ

第二 仲裁人カ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シタルトキ  
第七百九十四條 仲裁人ハ仲裁判斷前ニ當事者ヲ審訊シ且必要トスル限  
リハ争ノ原因タル事件關係ヲ探知スヘシ  
仲裁手續ニ付キ當事者ノ合意アラサル場合ニ於テハ其手續ハ仲裁人ノ  
意見ヲ以テ之ヲ定ム

第七百九十五條 仲裁人ハ其面前ニ任意ニ出頭スル證人及ヒ鑑定人ヲ訊

問スルコトヲ得

仲裁人ハ證人又ハ鑑定人ヲシテ宣誓ヲ爲サシムル權ナシ

第七百九十六條

仲裁人ノ必要ト認ムル判斷上ノ行爲ニシテ仲裁人ノ爲  
スコトヲ得サルモノハ當事者ノ申立ニ因リ管轄裁判所之ヲ爲ス但其中  
立ヲ相當ト認メタルトキニ限ル

證人又ハ鑑定人ニ供述ヲ命シ裁判所ハ證據ヲ述フルコト又ハ鑑定ヲ爲  
スコトヲ拒ミタル場合ニ於テ必要ナル裁判ヲモ亦爲ス權アリ

第七百九十七條

仲裁人ハ當事者カ仲裁手續ヲ許ス可カラサルコトヲ主張  
スルトキ殊ニ法律上有效ナル仲裁契約ノ成立セサルコト、仲裁契約カ判  
斷ス可キ等ニ關係セサルコト又ハ仲裁人カ其職務ヲ施行スル權ナキコ  
トヲ主張スルトキト雖モ仲裁手續ヲ續行シ且仲裁判斷ヲ爲スコトヲ得

第七百九十八條

數名ノ仲裁人カ仲裁判斷ヲ爲スコトキハ過半數ヲ以  
テ其判斷ヲ爲スヘシ但仲裁契約ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第七百九十九條

仲裁判斷ニハ其作リタル年月日ヲ記載シテ仲裁人之  
署名捺印ス可シ  
仲裁人ノ署名捺印シタル判斷ノ正本ハ之ヲ當事者ニ送達シ證書ヲ添ヘ  
テ管轄裁判所ノ書記課ニ之ヲ預ケ置クヘシ

第八百條

仲裁判斷ハ當事者間ニ於テ確定シタル裁判所ノ判決ト同一ノ  
効力ヲ有ス

第八百一條

仲裁判斷ノ取消ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ申立ツルコトヲ得

第一 仲裁手續ヲ許ス可カラザリシトキ

第二 仲裁判斷カ法律上禁止ノ行爲ヲ爲スコキ旨ヲ當事者ニ言渡シ  
タルトキ

第三 當事者カ仲裁手續ニ於テ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレザリシ  
トキ

第四 仲裁手續ニ於テ當事者ヲ審訊セザリシトキ

第五 仲裁判斷ニ理由ヲ付セザリシトキ

第六 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴  
ヲ許ス條件ノ存スルトキ

仲裁判斷ノ取消ハ當事者カ別段ノ合意ヲ爲シタルトキハ本條第四號及  
ヒ第五號ニ掲ケタル理由ニ因リ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八百二條

仲裁判斷ニ因リ爲ス強制執行ハ執行判決ヲ以テ其許ス可キ  
コトヲ言渡シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

右執行判決ハ仲裁判斷ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ理由ノ存スルト



キハ之ヲ爲スコトヲ得ス

**第八百三條** 執行判決ヲ爲シタル後ハ仲裁判斷ノ取消ハ第八百一條第六號ニ掲ケタル理由ニ因リテノミ之ヲ申立ツルコトヲ得但當事者カ自己ノ過失ニ非スシテ前手續ニ於テ取消ノ理由ヲ主張スル能ハサリシコトヲ疏明シタルトキニ限ル

**第八百四條** 仲裁判斷取消ノ訴ハ前條ノ場合ニ於テ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ

右期間ハ當事者カ取消ノ理由ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ執行判決ノ確定前ニハ始マラサルモノトス但執行判決ノ確定ト爲リタル日ヨリ起算ンテ五年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ許サス

仲裁判斷ヲ取消ストキハ執行判決ノ取消ヲモ亦言渡スヘシ

**第八百五條** 仲裁人ヲ選定シ若クハ忌避スルコト、仲裁契約ノ消滅スルコト、仲裁手續ヲ許ス可カラサルコト、仲裁判斷ヲ取消スコト又ハ執行判決ヲ爲スコトヲ目的トスル訴ニ付テハ仲裁契約ニ指定シタル區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ其指定ナキトキハ請求ヲ裁判上主張スル場合ニ於テ管轄ヲ有ス可キ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄スル前項ニ依リ管轄ヲ有スル裁判所數箇アルトキハ當事者又ハ仲裁人カ最

初ニ關係セシメタル裁判所之ヲ管轄ス

### 民事訴訟法終

### 民事訴訟法施行條例

(明治二十三年七月 法律第五十號)

朕民事訴訟法施行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシメ此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

#### 民事訴訟法施行條例

**第一條** 民事訴訟法施行前ニ提起シタル訴訟ニ付テノ爾後ノ訴訟手續ハ民事訴訟法ニ依リテ之ヲ完結ス

**第二條** 民事訴訟法施行前ニ闕席ノ儘言渡シタル裁判ニ對シテハ民事訴訟法ニ依リテ故障ヲ申立ツルコトヲ得

**第三條** 民事訴訟法施行前ニ言渡シタル裁判ニ對スル控訴上告期限ハ新法ノ控訴上告期間ニ依リ其實施ノ日ヨリ起算ス但其期間カ舊法ノ控訴上告期限ヲ超過セルトキハ其期限ニ從フ

**第四條** 民事訴訟法施行前ニ確定シタル裁判ニ對シテハ民事訴訟法ニ

依リ其實施ノ日ヨリ起算ス但其期間カ舊法ノ控訴上告期限ヲ超過スルトキハ其期限ニ從フ

民事訴訟法施行條例

民事訴訟法施行條例

民事訴訟法施行條例

明治十四年十一月廿二日印刷  
 明治十四年十一月廿六日發行

不許複製

法律研究會編纂

發行者 井上尙一  
 大阪市南區安堂寺町四丁目百九番邸

發行者 井上鐵次郎  
 東京市麴町區飯田町二丁目四十番地

印刷者 日出版民助  
 大阪市西區北堀江上通一丁目廿七番地

發行所 東京大阪 井上一書堂

依リ再審ヲ求ムル訴ヲ爲スコトヲ得但民事訴訟法實施前ニ再審ノ條  
 件生シタルトキハ其條件ノ生シタル日ヨリ再審ノ期間ヲ起算ス  
 第五條 民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ノ強制執行ハ民事訴訟法  
 ニ依リテ之ヲ完結ス但シ既ニ身代限ノ揭示ヲ爲シ又ハ公賣ニ著手シ  
 タル事件ハ其手續ノ終了マテハ舊法ニ從フ  
 第六條 民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ノ執行命令ヲ得サル場合  
 ニ於テ民事訴訟法第四百九條ノ規定ニ從ヒ證明書ヲ要スル者ハ  
 第七條 民事訴訟法第三百八十一條ノ規定ニ從ヒ區裁判所繼續シテ之ヲ完  
 結スルコトヲ得  
 第八條 民事訴訟法ノ規定ニ依リ市町村長ノ爲ス可キ職務ハ市町村長  
 ヲ置カサル地ニ在テハ其職務ヲ行フ吏員ニ屬ス  
 第九條 民事訴訟法ニ於テ親族ト稱スル者ハ當分ノ內刑法ノ親屬例ニ  
 依ル  
 第十條 婚姻離婚及養子ノ縁組縁縁ニ關スル訴ニ付テハ特別ノ慣例ア  
 ルモノハ當分ノ內其慣例ニ從フ  
 第十一條 明治六年第六號布告ハ當分ノ內其效力ヲ有スルモノトス  
 (民法施行法第九條ニ依リ消滅)  
 第十二條 明治十年第十九號布告控訴上告手續第十六條中大審院トア  
 ルヲ上告裁判所ト改メ該條ハ當分ノ內其效力ヲ有スルモノトス

253
877

